

# ニューズレター 第8号

## 大阪学院大学外国語学部

外国語学部は実績主義

—夢を実現した先輩に続いて下さい—

2014年3月30日発行

### 外国語学部の学びのポイント

外国語によるコミュニケーション能力(英語、独語、仏語を、読み、書き、聴き、話す力)を最大化することによって、学部生の 1) キャリア形成(教職を含む) 2) 留学 3) 大学院進学をサポートします。

\*\*\*\*\*

### 大阪教育大学大学院に進学

萩原 志織さん(英語学科 2014年3月卒業。2014年4月より大阪教育大学大学院 教育学研究科 英語教育専攻 英語学コース 進学予定。)

私の夢は、教師になることです。教師になろうと決めたきっかけは二度ありました。一度目は中学校の時です。進路のこと



で悩んでいた私に、担任の先生が私の性格にあった道を一緒に考え、探してくれました。その姿に「私もこういう人になりたい」と憧れました。二度目は高校の時です。英語担当だったある先生

は、当時英語が苦手だった私に丁寧に教えてくれました。また ALT の先生と流暢に英語で話す姿に、「こういう風に英語が話せたらいいな」と憧れました。それぞれの先生へのこの憧れから、高校を卒業する時には「将来中学校の英語の先生になる」と思うようになりました。

大阪学院大学に入学して、教職課程を履修し、また地元の中学校での学習支援ボランティアにも参加して、少しでも私が理想としている教師に近づく為ひたすら勉強しました。そ



<教育実習先の中学校で>

れにより、教育実習では自信を持って臨むことができました。3週間という短い間でしたが、様々な出来事がありました。実習中、担当したクラスの生徒が、放課後英語を教えてほしいと私の元へ来ました。その生徒は英語が苦手で、私の授業を聞き英語が少し好きになったと話してくれました。そのことを聞き、私は目指していた教師に近付けたのだと実感し、大変嬉しく思いました。しかし、つらいことも多くありました。授業中に遊びだす生徒を注意しきれず、クラスがまとまらずに授業ができなかったことがありました。また学習支援ボランティアと異なり、生徒たちとの距離がより近かったため、あるべき生徒たちとの適切な距離感が掴めず、どう接していいのかわかりませんでした。そんな後悔や悔しさから、自分は教師に向いていないのではないかと思い始め、半ば教師を諦めるに至りました。

そんなとき、ある先輩にお会いしました。その

人は私と似たような事を思っていて、より良い教師になるために大学院へ進学することを決めたとおっしゃっていました。そのお話を聞き、また教育実習での嬉しかった出来事を思い返し、「やはり高校時代から憧れている先生になりたい。この教師という職業に就きたい」と思い、尊敬する恩師に近付くために大学院進学を決意をしました。

そのための大きな課題は、大学院へ進学するための英語力がないことと、専攻する研究分野がないということでした。この大学の先生方に相談し、研究分野を生成文法に定め、英語力は英語で書かれた教科書を読むことと大学院試験の問題文を解くことで上げていきました。夏休みや春休みの間も勉強会を開いていただき、専門用語に悪戦苦闘しながらの日々を過ごし、晴れて大阪教育大学に



<新春夢トーク>  
(右から2人目が萩原さん)

合格することができました。試験当日はあまり手ごたえがよくなかったのですが、合格の知らせを聞いたときは嬉しさよりも驚きの方が強かった覚えがあります。

私は未だ、高校の時から「教師になる」という夢は果たせていません。その夢の途中、何度も教師を諦めて就職活動をする方がいいのではないか、とっていました。けれどもここで諦めたら絶対に後悔するという気持ちと、「先生ありがとう」と言ってくれる生徒たちの笑顔が見たいという気持ち、また教職課程を履修していた人たちの存在や、私の夢を支えてくださった神谷先生や川本先生などお世話になった先生方のおかげで、諦めることなく進むことができました。本当に感謝

してもしきれません。

これから夢を追うみなさんは、何度も振り返ったり立ち止まったりするでしょう。そうなったときは周りを見渡してください。一人では乗り越えられないことでも、周りの人たちと一緒になら、乗り越えられると私は信じています。そうして、たとえ遠回りだとしても、自分が見つけた夢はぜひ叶えてください。私も教師という夢を叶えるために、これからも頑張っていきます。夢を追う者として、一緒に頑張っていきましょう！

(ハギハラ シオリ)

\*\*\*\*\*

## 上智大学大学院に進学

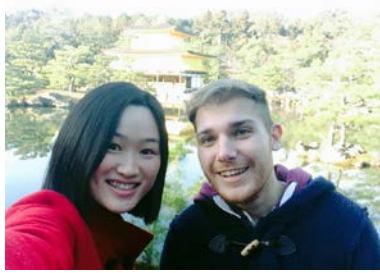
柏木 彩未さん (英語学科 2014年3月卒業。在学中 トリア大学 (ドイツ) に留学。2014年4月より上智大学大学院 文学研究科 新聞学専攻 進学予定。)

高校3年間、全国大会を目指す強豪校でバスケットボールに明け暮れていた私は、大学入学当初、英語が不得意な学生でした。そんな私が大学で外国語学部を選択した理由は、「英語が大好き」、「英語を学びたい」という気持ちがあったからです。なぜなら、私は小学生の頃に英会話教室に通っていて、英語に触れることがごく自然でした。しかし、「ただ好き」というだけで英語力は皆無でした。



(左端が柏木さん)

大学に期待と不安を抱えて入学したものの、現実には英語の必修授業を理解することも難しく、



勉強に追われる日々でした。初めて受験したTOEICスコアも290点しかなかった私は、大学で英語を基礎から学びました。わからないところは、先生が丁寧に教えてくださり、希望をすれば、追加で課題を出してくださる他、個別で勉強のアドバイスもしていただきました。入学直後には現在のように外国人の友人もいませんでしたが、大学内にある他言語・異文化体験スペースの I-Chat Lounge に通い、ネイティブのスタッフの方々と実践的に英語を使って会話練習をしました。留学したこともあり、大学4年間で外国人の友人が200人以上でき、今では1日の中で英語を使わない日は無いまでになりました。入学した時には、こんな今の自分の姿を想像もできませんでした。

大学生活4年間で振り返ってみると、ドイツのトリア大学での1年間の留学経験は私の人生の1つのターニングポイントだったように思います。ドイツ一人で旅立った私は、フランクフルト空港に着いた直後から、空港内のドイツ語で書かれた案内板が理解できず、とても困りました。電車の乗り方すらわからず、空港内で迷っている所をドイツ人に英語で声をかけてもらいましたが、当時はその英語さえも訳が分からず、挙句の果てには困った私を電車のホームまで案内してもらった始末でした。それだけではなく、ドイツ語の語学学校 (Goethe Institut) で相部屋になったアメリカ人との会話が全く成り立たず、いつも辞書が手放せませんでした。当時、私は解決策をいろいろと考

え、試行錯誤しましたが、その中で最も効果的な方法だったのは、「自分から挨拶をする」という誰にでもできることでした。その結果、私は大学内だけでなく地元の方とも多く交流する機会ができ、必然的にドイツ語や英語を話す時間を増やすことができました。また、挨拶をすることによって、印象がよくなり、大学外でも話しかけられることが多くなりました。

英語力を向上させるために、トリア大学の英語の授業を受けたり、アメリカ人の友人と週に最低3時間は英語で話したり、長期休暇を利用しイギリスへ行ったりと、できる限り英語に触れる時間を作りました。その後、留学経験で得たことはさまざまな面で役立っています。例えば、帰国後に留学生と交流できるイベントに積極的に参加するようになったり、学会に運営ボランティアとして参加させてもらったりしました。

私は3年次の時に、卒業後どのような職に就いたらよいか、手に職や教員免許も持たず、どうしたらよいかとても悩んでいました。そんな時に、ゼミの先生をはじめ大学関係者の方々が親身に相談にのってくださり、試験の直前まで献身的にサポートしていただきました。



(右から2人目が柏木さん)

私は卒業後上智大学大学院文学研究科に進学します。そこで、博士前期課程では、マス・コミュニケーション理論、ジャーナリズム理論、メディア分析を中心に捉えたカリキュラムの中、大阪学院大学で得た知識を活かしつつ、研究を進め、修

士論文を完成させるつもりでいます。

私は、同じ志を持つ友人にも恵まれ、互いに切磋琢磨することのできる素晴らしい大学生活を送ることができました。是非、皆さんも大学時代があなただけにしかできない4年間となるように頑張ってください。



(左から3人目が柏木さん)

(カシワギ アヤミ)

\*\*\*\*\*

### 自らアクションを起こそう！

小川 晴基 さん (2014年3月英語学科卒業。4月よりホテルモンテ株式会社勤務予定。)

私が大学生活で頑張ってきたことと、自信を持って言えることは、学業とアルバイトしかありません。大学に入学してから部活やサークル活動に参加はしておらず、実際に就職試験でも学生生活で頑張ったことは学業とアルバイトのことしか話しませんでした。2



年次までは、授業に出席し、そしてアルバイトに行くという一日を毎日過ごしていたのです。

3年になってからは少しでも社会人としての考え方や行動ができるようにと思い、夏休みに ザ・ウィンザーホテル洞爺リゾート&スパ に実習に行かせていただきました。ウィンザーホテルは、知っている方もいるかと思いますが、北海道の洞爺湖の近くにあり、2008年の夏に開催されたサミットの開催会場に利用されたホテルです。皆さんは、実習受け入れ先として大阪などに自宅から通えるホテルもあったにも関わらず、なぜわざわざ遠いところに行くのかと思うかもしれません。確かに自宅から通えた方が楽ですし、知っている土地ということで余計な心配も少ないと思います。しかし私は環境を変えて実習を経験した方がより成長でき、絶対に就職活動に活かせると考えて、北海道に行きました。現地では社員寮での生活だったのですが、テレビなど電化製品はなく、コンビニの品揃えもあまり多くなく、そのような環境で2週間実習を経験しました。実習を始めた頃はやっぱり大阪などで実習をした方が良かったと後悔したこともあったのですが、2週間後には北海道の一流ホテルで実習が出来て良かったと思えるほど成長させていただきました。この感覚は自ら動いた人間にだけ感じ取れる感覚だと思います。

そしてこのような経験をしていたからこそ私は、就職活動の軸として企業のネームブランドや会社の規模を気にすることなく、勤務地限定で働ける企業を中心に応募しました。私はインターンを経験して、休日も充実していなければ、どれだけ好きな業種で働いていても、いずれ頑張れなくなる日がきて、自分自身で満足して働くことができなくなると考えたからです。この軸を常に持ちながら就活をしていくなかで、春に大阪学院大学にホ

テルから求人募集が来ているとキャリアセンターの職員の方から電話があり、選考に進むことになりました。その時のホテルが私の就職先となるホテルモントレでした。ホテルモントレは全国展開

をしているのですが、大阪学院大学にきた求人募集は梅田、難波、京橋、京都、



(右端が小川さん)

神戸のホテルにしか転勤がないということでした。この募集内容は私の軸を曲げずに且つ憧れの職種ということで、絶対に内定をもらう勢いで面接を受けました。最終面接があった6月の末には他の2つホテルからも内々定を頂いていたのですが、私はホテルモントレに決めました。その決心の最大の理由は2つあります。1つ目は最終面接で「他の内々定は断って、是非来てくれ」と言っていただいたからです。そして2つ目の理由は、ホテルモントレは、展開・運営するいずれのホテルにおいても内装や外観に海外の様式が広く取り入れられており、日本で宿泊していながら海外に来ているような感覚をお客様に堪能していただけることです。そして同時に、働いている従業員も海外のホテルで働いているような感覚になれるということが、私にはとても新鮮に感じられ、ここなら絶対に自分の満足の出来るサービスをお客様に提供出来ると確信があったからです。実際のところ、他のホテルから賞与や給料など待遇面で有利な条件を提示されましたが、私の決心が揺らぐことはありませんでした。

私はホテルモントレから内々定を頂いた6月末に就職活動を終えて、キャリアセンターの職員の方に勧めていただいて、後期からキャリアチュー

ターという後輩の就職活動のサポートをする仕事を始めました。後輩の学生たちの就職活動に関する疑問や不安の相談にのったり、外国語学部だけでなく他学部も含めて2年次や3年次のゼミの授業に出張して、就職活動の体験談をお話しさせていただきました。こうしたチューターという仕事を通して、社会人研修の準備のようなことを前もって受けさせていただいたようなものですし、さらには「大学案内」のパンフレットにも載ることになったりと、大学生で1度しかない貴重な経験も出来ました。



<吉村秀幸ゼミ>  
(後列右から3人目が小川さん)

皆さんは外国語が好きで外国語学部に入った方もいれば、外国語を使う仕事がしたくてこの学部を選んだ方もいるかと思います。私はこれから皆さんが経験することに正解は1つではないと思いますし、どのような理由で外国語学部を選んでいてもいいと思います。でも、私の経験から、1つだけとても大事なことを伝えさせてください。高校は学校が勝手に時間割を組み、何もしなくても皆が一緒にほぼ自動的に進級・卒業できてしまうのですが、大学は違います。大学は、自分からアクションを起こした人には、高校の比ではないほどのサポートをしてくれますが、全くアクションを起こさなければ、先生も職員さんも全くサポートをしてくれません。大学時代というのは一生の

中で一番時間を自由に使える時です。今自分には何が必要で、その為には何をすればよいのか、何にこの自由な時間を使うべきなのか、外国語学部の皆さんならわかるはずです。卒業近くになってから後悔のないように頑張ってください。

(オガワ ハルキ)

\*\*\*\*\*

### 教職課程で得た発信力で内定へ

堀江 咲葵 さん（2014年英語学科卒業。4月より株式会社サンエー・インターナショナルに勤務予定。）

私は春から株式会社サンエー・インターナショナルというアパレル業界の企業で販売員として働きます。この企業を選んだ理由はアパレル業界で働きたいという理由の他に、会社の雰囲気重視しました。まずは私の就職活動について話したいと思います。



大学生活のなかで就職活動に役に立ったことは何かと問われて、直ちに心に浮かぶのは「教職課程で学んだこと」です。実は大学入学時は教師を目指しており、教職課程を受講してきました。アパレル業界に進むと決めた今でも、教職課程を履修し続けています。教職課程の授業では、文章の書き方を学習したり、何度も人前でプレゼンテーションをするので、自分の意見を伝える能力や発

信する能力の向上、目上の方との接し方など普通の大学生活を送っていたら決して経験できないことを学ばせて頂きました。なにより、教職課程を受講していてアパレル業界を目指している人が少ないので面接などでは興味を持って頂け、他の就活生よりも目立つことが出来、強みになりました。アパレル業界は一般企業の面接よりもユーモアがある質問が多いです。例えば「1分間で自分を表現して私達面接官をファンにしてください。」などがあります。接客業はお客様をファンにすることが大切なので、初めて会う人をどのくらい引き込むことが出来るかを試されたのではないかと思います。その時に教職課程でも模擬授業で鍛えられた発声や注目させる技を見せる事が出来ました。就職活動は常に笑顔で、そして、相手に伝わるぐらいに自身が楽しんで取り組むことを軸に進めて行き、内定を頂きました。実際、上手いかなかったことや就職活動を辞めたいと思うことは何度も何度もありました。しかし今では全てが良い思い出になっています。

学生生活は部活やサークルに入ることや留学をすること、そして語学研修をすることはありませんでした。他と違ったのは先ほども話した教職課程を受講していたくらいです。あとは外国語学部内でも他学部でも、1人でも多くの友達を作ること力を入れていました。「最終学歴の友達は生涯の友達」という言葉を昔から聞いていたので「生涯の友達を作ろう！！」と半分冗談で取り組んでいました。無理に作るのではなく自然に気の合う友達が増えていき、卒業前での今では生涯の友達になるであろう人に出会うことができました。大学で友達を増やす事は後々活かされてきます。皆さんも是非外国語学部以外の友達も作ってほしいです。



<神谷ゼミ>  
(前列右端が堀江さん)

最後に、大学生活は遊んでよいと思います。ですが、きちんと切り替えは必要です。私もそうでしたが、遊ぶ時はとことん遊んで、レポートや発表前は本気モードできちんと提出期限を守ることや最終仕上げをする事を頭に入れていきましょう。時間がたっぷりある今だからこそ、なんでもチャレンジしてください。たとえ壁にぶつかってケガをしたとしても卒業する時には良い思い出になっているはずですよ。ですので、怖がらずに自分にブレーキをかけずにやり尽くしてください！！最高の学生生活が送れますように。

(ホリエ サキ)

\*\*\*\*\*

### 私の5年間

山下 瑞葵 さん (2014年3月英語学科卒業。在学中 EF International Language School NY 校に留学。4月よりハートンホテルサービス株式会社に勤務予定。)

「英語が話せるようになりたい」という漠然とした夢から私は、大阪学院大学外国語学部英語学科に入学しました。この時から「4年間を絶対に

無駄に過ごさない」と心に決めていました。どうすれば4年間を有意義に過ごせるのか？私が出した答えは、何事にもチャレンジをしてみるということでした。

最初の私にとっての大きなチャレンジは、教職課程を履修することでした。授業数や課題の多さ、介護体験、特別支援学校での実習、そして中学校での教育実習。挫けそうになることばかりでしたが、弱い自分に負けたくないという気持ちと、一緒に頑張る友達がいたので諦めることなく最後までやり切ることが出来ました。辛かった思い出もたくさんありますが、それ以上に得たものは大きかったです。英語力、文章力、コミュニケーション力、指導力、そして私が何よりも苦手だった大勢の前で話す力が付きました。結果的に私は教師への道には進みませんでした。これらの経験が今の私の大きな自信となっています。教育実習で生徒たちからもらった色紙や手紙は私の宝物です。

3年生の夏休みにはカナダ、メディシンハットへの語学研修に参加しました。たった2週間という期間でしたが、日本を離れることが初めてだった私にとっては大冒険でした。英語が聞き取れない、話せない悔しさと、他国の文化や考え方の違いに驚きを身を持って感じました。帰国し、「勉強しよう」と改めて感じさせられた2週間でした。

3年生の冬に就職活動が始まり、周りの友達が忙しくしている中、私は自分の将来について悩ん

でいました。先生にも親にも何度も相談し、最終的に私が出した答えは、「やっぱり長期で留学



<米国アリゾナ州 Grand Canyon で>

がしたい」でした。周りの方々の支えがあり、大学を丸1年間休学し、9ヶ月間の留学を実現させることが出来ました。心配をしながらも背中を押してくれた両親には本当に感謝しています。私は都会に行きたかったという理由で、留学先をアメリカのニューヨークに決めました。語学学校で様々な国籍の生徒と共に英語を学び、寮で多国籍のルームメイトと共に生活をしていました。最初はクラスメイトやルームメイトとの意思疎通がなかなかうまくいかず、毎日毎日授業が終わっても机に向かいました。緊張と不安もありました。しかしすぐに友達も増え、最後には英語の上達を自分自身で感じる事が出来ました。休日やパケーションには友達とマンハッタンへ遊びに出掛けたり、ラスベガスやロサンゼルスへ国内旅行したりもしました。また、独立記念日やハロウィン、サンクスギビングデーやクリスマス、そして世界最大といわれるニューヨークの大晦日のカウントダウンにも参加することが出来ました。本当に毎日が濃い9ヶ月間でした。

日本では出来ない経験をたくさんし、英語力だけでなく、人間的にもひと回り大きく成長することが出来ました。



帰国した私は通常より1年遅れて4年生になりました。教育実習もあり、少し遅いかもしれませんが、私は6月から就職活動を始めました。留学によって英語力にも自分自身にも自信がついた私は、「英語に携わり続けられる仕事に就きたい」と考えていました。そこからホテル業界を調べるようになり、内定を頂いたホテルで今実習生としてアルバイトをさせて頂いています。海外からの

お客様もたくさんおられるので、英語を使う場面が多々あります。以前の私だったら自信がなく、働けていなかったかもしれません。この5年間でたくさんのことにチャレンジすることによって私は多くの自信を手に入れました。社会人になってもチャレンジを忘れず頑張っていこうと思います。

(ヤマシタ ミズキ)

\*\*\*\*\*

### 編集後記

長い間この『ニューズレター』製作にご尽力くださっていました吉村秀幸先生がこの3月で大阪学院大学をご退職されます。お優しい吉村先生は在学生だけでなく卒業生たちからも慕われていて、卒業生との堅固なパイプをお持ちで、『ニューズレター』へ投稿をしてくれる卒業生や在学生を大勢紹介してくださいました。今号にも、吉村秀幸ゼミから小川晴基さんと山下瑞葵さんが投稿してくれています。

大阪外国語大学(現 大阪大学)卒業後、一般企業に入社し国際的なビジネスの場で活躍するも、それに飽き足らず、勤務する会社を退社し、アメリカ放浪旅行に出かけ、その後母校の大阪外国語大学大学院で修士号を取得し大学教員になったという変わった経歴をお持ちの吉村先生は、研究畑一筋のエリート教授と異なり、人間味あふれ、豊かな柔軟性を備えていらして、学生たちを温かく多角的な見方で指導されてきました。「勉強は何歳になっても始められる。若いうちにしかできないことを今しておこう。」というのが吉村先生の口癖です。その言葉に励まされた若者たちがどれほど多くいることでしょう。

平成26年度は、吉村先生は、3年次からご担当されている4年次生のゼミをご指導されるため、週に1日だけ本学に来られます。先生にとって最後のゼミの指導ということになります。(YK)

ニューズレター 第8号

発行 2014年3月30日

発行者 大阪学院大学外国語学部

発行者住所 〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36-1

(電話) 06(6381)8434

(学部 URL) [http://www.osaka-gu.ac.jp/dhp/gaikokugo\\_gakubu/](http://www.osaka-gu.ac.jp/dhp/gaikokugo_gakubu/)